烽火村の形態的変遷
―権力の視点からの考察―

Morphological Transition of Fenghuo Village

― Discussion from the Viewpoint of Power ―

学籍番号　47-186758
氏　　名　龔　歆潔（Xinjie, Gong）
指導教員　岡部 明子 教授

1.　はじめに

1.1.　背景と目的

近代以来、世界は都市化している。これは都市だけで起きていることではなく、世界人口の大半を占めた農村は急速に衰退し、残された農村もそのライフスタイルは都市化している。大半の人が、ひいては全ての人が関わる大変化であり、農村では都市化の流れで何が起きたか、明らかにする必要があると考える。他方、こうした農村の形態的変遷は政府による関与が変わってきたことの現れとして捉えられる。数十年前は、基本的に農村の自治に委ねられていたが、近年では個人の情報と生活のさまざまな側面が把握され、管理される情報管理システムが徐々にできている。

本研究では、村の形態（物的環境/アーキテクチャー）を切り口として、中国南部にある一般的な農村――烽火村の事例研究によって、農村の形態的変遷を明らかにする。また、本研究では政府の情報管理システムの完成、そしてその過程とそれによる政府の影響を権力と捉え、形態的変遷から権力の介在の変質を読み取ることを目指す。

1.2.　既往研究

中国農村に関する研究をスケールで分けると、中国農村全体、ある地域の村とある村の事例研究がある。本研究は村の事例研究である。

内容や視点でみると、耕地や道路整備など村の形態的変遷を分析する地理学的な研究が多くある（小島、韓・蔡）。また、土地・建築制度や規制など権力に関する社会学的な研究も、農村の近年の変化おける村・政府・市場の関与（李，杜）、村民の視点でみる村と政府機関の関与（南）と能動的・受動的・消極的という村の変遷の 3 パターン（邢）など様々ある。本研究は、これらとは異なる観点から、村の形態的変遷からどのように権力が及んでいるかを読み取ることを目指す。

権力についての研究では、フーコーがよく知られているが、東浩紀は一般に言われる規律訓練型権力に対して、現代新たに生じてきた個人認証やネットワーク、監視カメラなどの技術で支えられるインフラ層における情報流通の管理を環境管理型権力と名付けている。ただし、東浩紀は都市を念頭に環境管理型権力を論じているが、本研究ではそれを農村に援用して考える。

1.3.　対象

本研究では、1978 年から 2018 年までの

烽火村の形態的変遷とそれに関与する因子を、直近 10 年間（2008～2018 年）を中心に、調査・分析する。

烽火村は中国東南内陸部の上下起伏 100 メートル未満の丘陵地に位置する行政村である。26 個の自然村によって構成され、基本的には血縁的な集落であるが、筆者の祖父母はそのうちの全員潘姓家族の自然村「項屋」に住んでいる。潘姓家族は 140 年前に烽火村に引っ越ししてきた。現在烽火村の戸籍人口は 3480 人で、出稼ぎの人が多いため、常在人口（9 ヶ月以上）はその 6 割の 2100 人である。血縁的自然村で、内陸部にあり沿岸部ほど経済発展が進まず、丘陵地のため農作業は機械化しにくく、歴史的価値のある伝統的な村でもなく、都市や鎮の縫製工場に出稼ぎに行く人が多くいる、あまり特徴も資源もなく、都市化の中で衰退している中国南部の村の典型例である。

1.4.　手法

研究手法は主に聞取調査、文献調査、目視・実測調査と参与観察を用いる。

まず、google earth の衛星写真と目視・実測調査をもとに、文献調査と聞取調査を参考に、1978 年、1988 年、1998 年、2008 年と 2018 年の烽火村の土地利用図(【図 1】。道路、建物、畑、森、水域）を作成するなどをして、各年代の村の「形態」を連続的に把握する。

つぎに、10 年間ごとにそれぞれの土地利用種別（形態的元素）の変遷（【図２】）と異なる種別間の転換を確認し、「形態的変遷」（【表 1】）としてまとめる。

さらに、建物の構造の変化や街路灯の整備など、土地利用図には反映できない聞取調査の内容を加えて、「出来事」（【表 2】）を整理する。

最後に、それぞれの出来事にだれがどう関与したかという、聞取調査でわかった具体的な情報に基づき、人の「関与」で説明する。

2.　形態的変遷

2.1.　形態的変遷、出来事

1978～2018 年の 10 年間ごとの形態的変遷を整理した結果（【表 1】)、変化がもっとも激しいのは直近 10 年間であった。道路、建物と森の増加が顕著で、水域は微増し、畑は微減していた。そして、建物は道路沿いに集まってきていた。

そこで、1978～2018 年の 10 年間ごとの出来事を整理したところ（【表 2】)、形態的要素には増減が見られるが、総じてそれぞれの形態的要素の面積の増加には政府の関与が見られるのに対して、その減少には政府がほぼ関与していないことが明らかになった。

2.2.　関与

ここでは 2.1 で明らかになった出来事への人の関与を示す。例えば、表 2 の 1 と 2 の「舗装道路の整備」過程を説明する。

烽火村の舗装道路は幹線道路 2 本、各自然村までの脇道、そして個人で作る道路の 3 種類ある。最初の 2 種類の開設には政府が関与し、2008 年から 2018 年までで築造距離は 2km から 17km へと急増し、個人で造成する道路も 0 から 3km に増えた。

幹線道路は政府が全て担当し､そのうちの太い方の「郷鎮級」はより規格が高く、村の最初の舗装道路として 2008～2011 年に開設され、2016 年に道幅は 4.3m から 5m へと拡げられた。村の舗装道路は歩行者と車両は分離せず、運転手は歩行者に注意す

る必要があるが、道路沿いの建物や人が少ない「郷鎮級」は車で往復するのが便利である。もう一本の幹線道路は脇道と同じく「郷村級」で、道路沿いの建物や人も多く、賑やかである。この 2 本の幹線道路は 28 個の自然村のうちの 12 個を通過し、総人口の 39%がその恩恵を受けている。

各自然村までの脇道は基本的にまず村民自身が基礎を整備し、次に政府が舗装をするという手順で作業が行われている。2019 年までに、28 個の自然村のうちの 8 個を通過し、総人口の 32%がその恩恵を受けている。残り 30%の人口を占める 8 個の自然村にも 2020 年までに舗装道路が全部通る予定となっている。

上述 2 種類の舗装道路から自宅まで距離がある場合には、個人が自費で舗装道路を作ることもある。

3. 結論

形態的変遷、出来事、人の関与を総合してみると、以下 3 点の結論があげられる。

①政府が村に与える影響は明らかに増していることから、政府を主体とする権力は農村で強化されているといえる。

②インフラ整備や経済振興プロジェクトなど、基本的に村民の求めることをすることによって、農村を掌握しようとしている

表 1：出来事（2008～2018 年）

道路	＋	1	【舗装道路の整備（幹線道路と脇道）:2→17km(+619%)、一部幅4.3→5m】				
		2	舗装道路の整備（個人で作る）:0→3km				
		3	道路の長さや幅が増加:3→11km(小道→未舗装道路、なし→小道/未舗装道路)				
	ー	4	道路の長さや幅が減少:5→4km(未舗装道路→小道、未舗装道路/小道→なし)				
建物	＋	5	新築/一部の建替（面積＋42%、0.187km2。畑/森/他→建物）	5-1	住宅：新築（33%、275個）/一部の建替	5-1-1	普通の新築/一部の建替
						5-1-2	【住宅：公営住宅の新築・危険家屋の改修】
				5-2	非住宅：増加（127%、19個）	5-2-1	【非住宅：＋公共施設2個（霊園（中心750）、スポーツ施設（幹線道路/その他））】
						5-2-2	非住宅：＋公共施設1個（五猖廟（幹線道路/中心750））
						5-2-3	非住宅：＋店舗付き住宅3個（麻雀店（幹線道路/中心100）、小売店4（幹線道路/中心750）、羊肉売り場（幹線道路/中心750）
						5-2-4	非住宅：＋生産施設13個（養殖場12個（鶏4牛2羊4兎1豚1）（道路7個。中心750＊5個、右上4個、その他3個。）、製砂工場（道路/その
	ー	6	建物の消失/空家化/倒壊/一部の建替/廃棄（面積-54%、0.240km2。建物→森/畑/他）	6-1	住宅：消失（19%、158個）/「空家化が進み、倒壊した住宅が増加」（→空家化（○18年の16%、149個）/倒壊（×18年の9%、82個））/一部の建		
				6-2	非住宅：消失（47%、7個）/廃棄（18年の19%、5個）	6-2-1	【非住宅：ー公共施設1個（小学校（道路/中心100））】
						6-2-2	非住宅：ー生産施設6個（採石場1～6（道路4個。右上6個））
						6-2-3	非住宅：廃棄＊生産施設5個（養牛場1（道路/中心750）～2（道路/中心750）、羊牧場2（道路/その他）、養鶏場3（道路/右上）、飼料工場（道路/中心750））
	位置	7	住宅：道路（34→77%）、幹線道路沿いに集中（9→15%）。道路に近い方は道路沿いに移動、遠い方は現地で建替。				
		8	【非住宅：移動＊公共施設2個（診療所（幹線道路/中心100）、村役場（幹線道路/中心100→道路/中心100））】				
	他	9	非住宅：内容が変化＊生産施設1個（採石場７→飼料工場（道路/中心750））				
畑	＋	10	【「退宅還耕」】（建物/森→畑）	森	＋	14	【保安林（畑/他→森）】
		11	【「森を商品作物の畑」】（森/他→畑）				6, 13, 18, 19
		10+11	【「退宅還耕」＋「森を商品作物の畑」】（建物/森/他→畑）			15	森が茂る（他→森）
		12	開墾（森/他→畑）		ー		5, 10, 11, 10+11, 12, 17
	ー		5, 14, 17			16	森が衰退（森→他）
		13	畑が荒れる（畑→森/他）	その他	＋		6, 13, 16
水域	＋	17	沼が拡大/増える（畑/森/他→池）		ー	19	採石場が消えて→森
	ー	18	沼が縮小/消える（池→森）				5, 11, 10+11, 12, 14, 15, 17
関連	a	【橋、道路施設や水の関連施設（護岸、ガードレール、井戸）の整備】					
	b	自動車の使用の増加					
	c	建物の構造の変化（組積造→架構式構造。土→焼成煉瓦→RC）、階数と間口数の増加、庭に複数の住宅・繋がっている住宅の出現など					
	d	【不動産(土地(畑･森･水域)･建物など)に関わる諸権利の確認：門標の発行、土地の所有と使用の証書など】					
	e	【「2種類の地区」「基本的な農地」などの指定】					
	f	【畑や森の流動化】					
	g	【農業補助金】					
	h	田/水域→養殖場					
	i	【省レベルの公益林】					
	j	環境汚染					

ことから、規律訓練型権力から環境管理型権力への移行が見られる。具体的には、人が生産性（ex.養殖場、商品作物の畑、土地の流動化）・利便性（ex.舗装道路・公共施設の整備）・安全性（ex.危険家屋の改修）などへの欲求を利用し、技術によって環境（ex.衛星写真で土地利用を調査）と人（ex.戸籍）の情報を全て把握し、人を制限できる（ex.新築、土地利用）環境管理型権力システムは徐々にできている。

③沼の所有と使用など、共同体（自然村）内部で決めれば政府が関与しないことと、建物の所有権の確認や新築など、政府の管理が都市部ほど徹底していないことから、農村における共同体の存在は、人々の行動を明示的に制御する規律訓練型権力のみならず、気づかないうちに制御される環境管理型権力にも抵抗する可能性を示している。

参考文献

1）ミシェル・フーコー（1977）『監獄の誕生　監視と処罰』

2）東浩紀（2007）『情報環境論集　東浩紀コレクション S』

3）南裕子（1995）「現代中国農村における国家と社会」『村落社会研究』1995 年 2 巻 1 号 p.20-30

4）李飛、杜云素（2015）「中国村落的歴史変遷及其当下命運」『中国農業大学学報（社会科学版）』2015 年 4 月第 32 巻第 2 期 p.41-50

図 2：地図(2018 年)

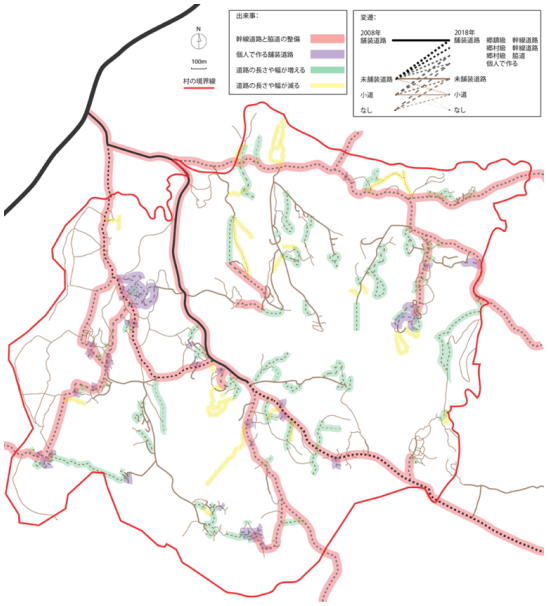

図 2：道路の変遷（2008～2018 年）

表 2：主要な形態的変遷

要素			1978～1988年	1988～1998年	1998～2008年	2008～2018年
道路	全体		幅がやや拡大			全長：基本変化なし（70→69km）
						内訳：「大半が小道（58%）、1/3強は未舗装道路（39%）、僅かな舗装道路（3%）」→約1/3ずつ
	舗装道路				幹線道路：0→2km	幹線道路＋脇道：長さ激増+619%（2→17km）、幅一部4.3→5m 個人で作る：0→3km
	未舗装道路					長さ-21%（27→21km）=+35-57%
	小道					長さ-33%（41→27km）=+6-39%
建物	全体					総面積-12%（0.448→0.395km2）
	住宅系	＋	ほぼ不変	新築を開始	新築は増加	33%（275個）新築（公営住宅あり）。結果＋14%（117個）。
		ー		空家は増加	空家が増え、倒壊した住宅が現れる	19%（158個）消える。空家化が進み、倒壊した住宅が増加。
		位置		元の居住地から広がり、ごく一部は幹線道路沿いに移動	幹線道路沿いに集まってきた	道路（34→77%）＋幹線道路沿いに集中（9→15%）、道路に近い方は道路沿いに移動、遠い方は現地で建替。
	非住宅系	公共施設	3（＋1ー1） 全部中心部	3→4（＋1移動2） 幹線道路沿いに集中（0→半分）＋全部中心部		4→6（＋3ー1移動2） 道路沿いに集中（50→83%）
		店舗付き住宅	0→2 全部幹線道路沿い＋全部中心部100	2→4 幹線道路離れ（全部→3/4）＋全部中心部	4（＋1ー1）	4→7 道路・幹線道路沿いに集中（3/4→全部）
		生産施設	0→2 中心部100/右上	2→7（＋6ー1） 右上が激増		7→14（＋13ー6内容変化1） 道路沿いに集中（43→64%）＋中心750/その他が激増
畑	＋ー		ほぼ不変			微減（ー7%＝0.202km2＝＋12%ー19%、村の42%→39%）
森	＋ー		荒れた山に松を植えて森が生い茂る	生い茂る		増加（＋30%＝0.816km2＝＋44%ー14%、38%→49%）
水域	＋ー		ほぼ不変			微増（＋15%＝0.029km2＝＋19%ー4%、3%のまま）。沼＋4ー5個。
その他	＋ー			＋6採石場		激減（ー73%＝0.589km2＝＋9%ー83%、11%→3%）。ー採石場。